戦争の時期、母は佐世保の近くの離島の
小学生でした。
島の小学校は 若くて生徒達に慕われる先生が
担任で、毎日楽しく まだ平和でした。
しかし、戦争は激しくなり とうとう その担任の先生も
兵隊に取られて 遠い戦地へ行く事になり
出発する先生を みんなで元気にバンザイをして
見送りました。
それでも 先生がいなくなって さびしい気持ちが
あったのは 当たり前です。
ある日 佐世保の港から 続々と海軍の船が
出発して 沖に向っているのに 誰かが気付き
「先生が乗っているかも！」と 子供達は みんなで
丘の上に かけ登りました。
高い場所から 沖の方を見ると 水平線が見えない程
ずらりと並んだ海軍の船が進んでいて、
佐世保港からの船も合流して 沖の彼方へ消えて
行きました。
その光景に 子達だけでなく 集って来た大人達も
「あんな すごい数の軍艦がいるんだ、日本はやはり
戦争に負けるハズがない。」と言ったり、思ったり
しました。
日本が勝って、先生も帰って来ると信じていました。

戦後、正しい情報を知る事が出来て考えてみると
あれは南方、ミッドウェー等にむかう船団だったのでは
なかったのかと思いました。
担任の先生は戦死され、帰って来る事はありませんでした。
もしや あの沖へ進む無数の船のどれかに
自分達を可愛がり教えてくれた先生が乗っていたかも
知れない、まだ20代で命を落とさなければ
ならなかった先生の事。
「あのころはね、お国がする事は全部正しいと
信じていたけど、遠い海の向こうで帰りたくても
帰れなかった人がどれだけの数いたのかと思うと
今だに悲しくなる。」
私が高校生のころ、一度だけ母が話してくれた
戦争の話です。

〒8570811
佐世保市高梨町1-21
サンフラワーマンション301
真野礼子　64才
0956-24-1955